

大阪府立国際児童文学館

発行 財団法人大阪国際児童文学館
〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6
大阪府立国際児童文学館内
TEL(06)6876-8800 FAX(06)6876-8686
http://www.iiclo.or.jp



REPORT

No. 24 2005.7

—2004年度活動報告— 1面 特集/2~4面上段 2004年度事業から~成果還元・新サービス/4面下段 その他活動報告

二〇〇四年五月五日、多くの皆様にご支援いただき、当館は、開館二〇周年を迎えました。一九八四年のこの日に、児童文学者、鳥越信氏の寄贈資料十二万点を元に、子どもの本の資料・情報・研究センターとしてスタートして以来、子どもの本とそれに関する資料を収集・整理・保存して公開するとともに、子どもの文学・文化の発展をめざして、様々な活動を行って参りました。今後とも皆様とともに、ますます活動を深めていき、親しまれる文学館となるよう努めて参ります。

二〇周年の日

記念式典・講演会

(五月五日)

開館二〇周年を記念して記念式典を開催しました。多くの資料を寄贈して下さった日本児童図書出版協会会長の

小峰紀雄さんに記念盾を呈し、日本児童文学学会会長の原昌さんより、児童文学研究団体有志からの寄贈図書目録を受領しました。

続いて、記念講演会「子どもの本の未来」を開催し、加古里子さん(絵本作家・科学者)と鶴見俊輔さん(哲学者・評論家)の講演のあと、松居直さん(福音館書店相談役・当館理事)にも加わっていただき、三者による鼎談を行いました(写真)。

一八〇名の参加者は、講師の子ども頃の絵本体験や子どもとの体験、子どもの遊びから学んだこと、児童文学館へのメッセージなどの話に熱心に耳を傾けていました。なお、講演録は、二〇周年記念誌「大阪府立国際児童文学館二〇年の歩み」に掲載しています。

いんも室行事

(五月三~五日)

二十周年記念の夢の池劇場は、三日の「西アフリカのお話」に始まりました。七二名が太鼓やバラフォンの演奏と素話に耳を傾けました。四日は「小さな山神スズナ姫」の世界を楽しむ」を開催。第一部は原作者の富安陽子さんとスズナ姫や動物たちになって短い劇をするワークショップ(二五名の子どもの参加)、第二部は人形劇団クラルテの「小さな山神スズナ姫」を上演。スズナ姫が山を秋色に美しく染める迫力ある舞台を二二八名の子どもの大人が楽しみました。



五日は人形劇グループの「アリババと四〇人の盗賊」の上演などの「アジアのおはなし」に六八名が参加(写真)、普段は見ることのできない明治・大正期の子どもの本を紹介する書庫ツアーや子ども向け検索ソフト「本の海大冒険」体験に大勢が参加しました。

小展示 開館二〇周年記念展

(四月一日~六月二八日)

小展示コーナーには、二〇周年にちなみだいたいのテーマで、多彩な所蔵資料の一部を展示しました。二〇年間で国内外の賞をとった様々な絵本、開館日一九八四年五月五日生まれの本、希少資料の街頭紙芝居や絵本原画などとともに、二〇年間で集めた膨大な資料の一端のご紹介を兼ねて、近年世界的に流行した「ハリー・ポッター」関連約五〇点と、最もポピュラーな日本の昔話絵本「桃太郎」関連一七〇点余りをコピー展示しました(資料データは展示リストに掲載)。同時に、パネル展示で当館の歩みを紹介し、五月五日には、インターネットサイト「日本の子どもの本二〇〇選」(三頁)の資料の展示も行いました。

ニッサン童話と絵本のグランプリ

二〇周年記念創作オープンセミナー(六月二七日)

開館と同時にスタートしたニッサン童話と絵本のグランプリの二〇周年を記念して、創作オープンセミナーを当館講堂にて開催しました。白鳥洋一さん(「ゆきおとこのパカンス」で絵本大賞受賞)と、西村まり子さん(「ボレボレ」で童話大賞受賞)には創作の苦労や工夫などを話していただき、童話と絵本の審査員の松岡豊子さん(写真・財団法人東京子ども図書館理事長)には参加者からの質問に答えながら創作のヒントやアドバイスをお話しいただきました。

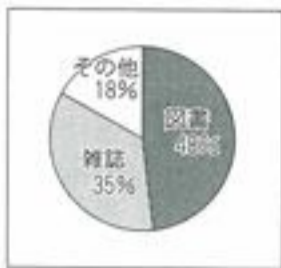


当日は、七〇人の方が参加し「今まで自分のひとりよがりを書いて楽しんできたが、話を聞いて意欲や考え方も変わった」「自分のなかにあるやむにやまれない気持ちを表現していく」という言葉に力を与えられた」「童話や絵本に対するイメージがより自由に柔らかくなった」など、多数の感想をいただきました。セミナーの内容は当館HPでもご覧いただけます。

◆所蔵資料 (2005年3月末現在)

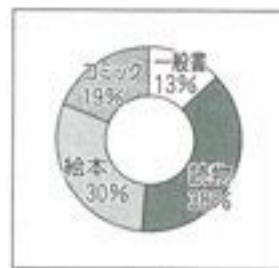
点数 718,332 点

所蔵資料内訳



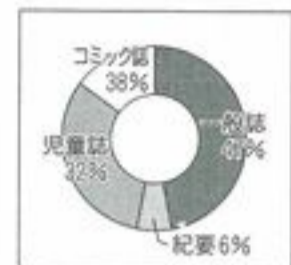
図書 344,296点
和図書 312,161点
洋図書 32,135点

所蔵図書内訳



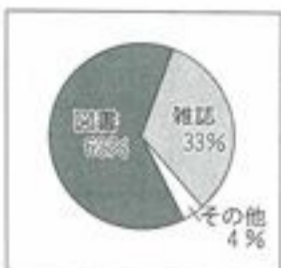
雑誌 250,229点
和雑誌 236,032点
洋雑誌 14,197点
その他 123,807点

所蔵雑誌内訳



◆増加資料 (2004年4月～2005年3月)

点数 17004 点

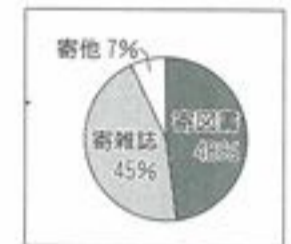


図書 10,807点
和図書 10,377点
洋図書 430点
雑誌 5,569点
和雑誌 5,391点
洋雑誌 178点
その他 628点



◆寄贈・購入点数

寄贈点数 9,500点
図書 4,640点
雑誌 4,233点
その他 627点
購入点数 7,504点
図書 6,167点
雑誌 1,336点
その他 1点



資料 閲覧・貸出・展示

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

閲覧室

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

コンピュータ・システムの更新

成果還元・新サービス

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。



◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

◆二〇〇五年七月、公共図書館展示用資料「ピーター・パンの世界」

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

展示バック特別貸出 開始

◆申込手続簡略化・海外の理論書開架
基本的な参考文献から専門性の高い最新の論文集まで、洋図書約一〇〇点を二階閲覧室で開架しています。卒業・修士論文の執筆などにお役立てください。新しく購入した図書も順次追加していく予定です。
閲覧室では昨年に引き続き、国内で最近約一年間に刊行された新刊の開架も行っています。

主な企画意図です。初期翻訳・翻案作品のコレクションもまとめてご覧いただくことができますので、是非ご利用下さい。

小展示 開催予定 ◆二〇〇五年十一月

「絵本の絵を読むもう一ページをめくる楽しみ」展（仮題）

本展は、昨年度の共同研究「〇・一・二歳児を対象にした絵本—その意義と活用」の成果の一部を元に、画面展開に工夫を凝らした多様な絵本をご紹介します。本年度企画の小展示です。

赤ちゃん絵本のロングセラー「松谷みよ子あかちゃんの本」シリーズ、生誕五〇周年を迎える「ミッフィー」シリーズ、本年六月に逝去した長新太、五味太郎らの絵本、また当館所蔵の古書も一部取り上げます。作り手独自の視覚表現の工夫をじっくりと見比べて、絵本の絵を読む楽しさ、ページをめくる楽しさを味わっていただきたく企画しました。

本展示資料は、二〇〇六年度以降、公共図書館での展示用として貸出も予定しています。小さなスペースでの展示ですが是非ご来場下さい。なお、本年八月十月の小展示は、「賢治曼陀羅—泉啓一追悼ガラス絵」展です。

紀要 ◆「国際児童文学館紀要第十八号」(二〇〇五年三月発行)

・「我が国の三歳未満児対象絵本—下限とされた年齢と理論の嚆矢—」永田桂子
・第九回国際グリム賞受賞記念論文「児童文学を語るさまざまな声 何を、いかに語るべきか」ピーター・ハント 多田昌美/訳

発行物

・「大阪国際児童文学館における物語体験の可能性(十)—ワークショップの演出方法—」王居安子
・「日本児童文学研究・評論史年表(一九四六—一九五四年)」向川幹雄

研究報告書

共同研究「〇・一・二歳児を対象にした絵本—その意義と活用」

赤ちゃんが絵本を楽しむためには、「赤ちゃん」と「絵本」、そして「赤ちゃんと絵本を手渡すおとな」の存在が不可欠です。三年間にわたる共同研究最終年度の二〇〇四年度は、特にそれら三者を視点に調査研究を行いました。七月にシンポジウム「赤ちゃんと絵本—赤ちゃんと絵本の現場からの報告—」での報告、二〇〇五年三月に日本発達心理学会、六月に絵本学会で研究発表を行いました。

◆平成十六年度研究・調査報告書(二〇〇五年三月発行)

一、「乳児が絵本を読むこと」に関する〇、一歳児の保護者の考え—乳児の行動に対する読みとりに基づいた検討—小森伸子
二、「〇・一・二歳児にとっての絵本—事例研究をもとに—」永田桂子

三、「絵本の画面展開における視覚構成—二歳以下を対象年齢に含む絵本を中心に—」窪田美鈴
四、「(試論) 絵本を楽しむ受容者の声と視覚構成の工夫—大阪府域の家庭、市町村で選ばれている絵本を例に—」窪田美鈴

五、「大阪府の市町村における赤ちゃんと絵本に関するサービスの実態」小森伸子
◆同、事例報告書 右記五章、大阪府域の各市町村ごとの乳幼児サービスに関する詳細な事例集を発行しました。

活動報告書

大阪府子ども読書活動推進事業

◆「豊かな子ども読書活動をめざして」平成十六年度報告書(二〇〇五年三月発行)
・シンポジウム「赤ちゃんと絵本—赤ちゃん

と絵本の現場からの報告—」まとめ

(七月一日/場所・当館講堂/当館共同研究、調査報告)小森伸子(当館職員) バネラー岸本ゆき江(大阪市鶴見区保健福祉センター・保健師、藤井亜希子(熊取町立熊取図書館・司書)、徳永満理(おさなご保育園・保育士)、メンター・佐々木宏子(鳴門教育大学教授)、コーディネーター・土居安子(当館職員))

・読書活動推進講座の報告
「子ども読書ファシリテーター講座」(三回連続)と「おはなしスキルアップ講座」(五回連続)、地域交流会を大阪府域三箇所で開催

◆「第七回アジア児童文学大会シンポジウム「絵本の民族性を考える」(二〇〇四年八月・発行協力)

・「伝統文化と私の絵本」李億培
・「台湾絵本から見える文化状況」洪文瓊
・「絵本とその民族性(絵本は民族性を持つべきか)」黒井健

◆二〇周年記念誌「大阪府立国際児童文学館二〇年の歩み」(二〇〇五年三月発行) 本誌一面参照

展示リスト

◆「大阪府立国際児童文学館開館二〇周年記念」展(二〇〇四年四月発行)

◆「アジアの子どもの本」展(同年七月発行)

◆「ピーター・パン誕生一〇〇年」展(同年十一月発行)

大阪国際児童文学館REPORT

◆二三号(二〇〇四年一〇月発行)

入門室ニュース

◆「たけのこ」六九号・七〇号・七一号(二〇〇四年六月・九月・十一月発行) / 連載「おはなしのせいかいのにんぎもの」など掲載

インターネット検索

共同研究「インターネットを活用した子ども向け図書検索システムの開発研究」

◆「本の海大冒険」のリニューアル

二〇〇三年四月の稼働以来、全国の小学校や図書館で幅広く利用されてきました。

二〇〇四年度は、子どもゆめ基金の助成により、システムに搭載している「子ども向け物語キーワード体系表」を全面的に改訂しました。キーワードを増やし、佐々木マキさんの絵を多く活用して、さらに体系表をわかりやすく、見やすくしました。また、二〇〇四年九月に日本教育工学会、十二月に日本人間工学会で研究発表を行いました。(http://kids.icilo.or.jp/)

◆「日本の子どもの本、二〇〇選

(一九四六—一九七九)完成

昨年度、第一期分を当館ホームページに掲げ、おかげさまで好評をいただきました。本年度はその第二期分、いわば戦後編を、第一期と同じく日本財団の助成を受けて、ホームページにアップしました。正確な書誌とともに、表紙や挿絵も掲げており、戦後の子どもの本の歴史をたどることができます。(二〇〇四年度北村武子記念児童文学振興基金活用事業)

国際交流事業の再編

大阪府域の企業や大阪府教育委員会などのご支援を得て、一九八九年から「外国人客員研究員招聘事業」を実施し、海外からお招きした、二六カ国四〇名にのぼる研究者、作家、編集者の方々は、当館滞在後、母国の児童文学・児童文化等の発展に寄与しておられます。このような成果を踏まえて、このたび国際交流事業の新たな展開を図ることになりました。

・第七回アジア児童文学大会



国際交流事業の再編に伴い、昨年度は外国人客員研究員の募集を行わず、八月に日本で開催された「第七回アジア児童文学大会」への協賛事業として、優秀論文発表者への奨励金支給、シンポジウム「絵本の民族性を考える」(写真)の記録冊子の発行、アジアの絵本展の開催という三つの事業を実施いたしました。なお、これらの協賛事業の成果のひとつとして、団体貸出用展示バックの「アジアの絵本」セットが2組完成しました(二面参照)。

いたたくプログラムです。二〇〇四年度は、二五〇〇人の子どもたちが利用し、好評を得ました。

・二〇〇五年七月、プログラム更新

「おはなし・児童文学を楽しむ」として、「テーマ別のおはなし(不思議・食べ物など)」「ワークショップ(おはなしであそぼう)」のほか、新たに、「さまざまな国の昔話を楽しむ」、昨年度のことも室企画講座から誕生した「人形劇」おどるところ(十月)を開始します。

また、「おはなし・児童文学を知る」として、「いろいろな絵本を楽しもう」「新美南吉・童話の世界」「文学や絵本の中のキツネ」「宮沢賢治の世界」のほか、一昨年度事業成果「デジタル・ミュージアム」を用いて、こどもの本の歴史を紹介する「子どもの本いま・むかし」、昨年度の研究事業成果を元に企画した「絵本の絵を読む」をご用意しました。

詳細は、ホームページをご覧ください。なお、事前の予約が必要ですので、くわしくは当館までお問い合わせください。

二〇〇四年度 その他の活動報告

小展示

- ◆「大阪府立国際児童文学館二〇周年記念」展/四月一日～六月八日(一頁参照)
- ◆「日本の子どもの本二〇〇選」/五月一日～五日
- ◆「アジアの子どもの本」展/七月一日～十月三〇日
- ◆「ピーター・パン誕生二〇〇年」展/十一月一日～一月三〇日(二頁参照)
- ◆「第二回ニッサン電話と絵本のグランプリ入賞作品」展/二月一日～三月九日

特別貸出等

- ◆「梶山俊夫展—絵巻と絵本の世界—」展/水川町立植野記念美術館、加古川総合文化センター、京阪キョウリイ/四月～十月/原画「あほろくの川だいい」他全八〇点
- ◆「児童文学の世界」展/那山市文学資料館/七月～八月/図書「十日間世界一周」他 全五五点
- ◆「久留島武彦と大分の童話家たち」展/大分県立先哲史料館/七月～八月/雑誌「お伽世界」他全二二点

◆「幻のロシア絵本一九二〇～三〇年代」展/芦屋市立美術館/七月～九月/雑誌「子供之友」他 全十九点

◆「昭和三〇・四〇年代の子どもの暮らしと教育」展/京都市学校歴史博物館/七月～十月/雑誌「週刊少年マガジン」他 全二〇七点

◆「アラビアンナイト大博覧会」展/国立民族学博物館/九月～十二月/図書「新訳アラビアン・ナイト」他 全十七点

◆「田島征彦の世界」展/木城えほんの郷/九月～十二月/原画「じくくのそうべえ」他 全八五五点

◆「川端康成青春の愛読書Ⅱ」展/次木市立川端康成文学館/二～三月/雑誌「冒険世界」他 全十三点

◆「紹介と解説 二〇〇三年に出版された子どもの本」講師：西村秀雄(科学読物研究会)・右田ユミ(箕面市立豊川南小学校校図書司書)・当館職員/場所：当館講堂/四月～五月・二六日

◆「ボランティア支援連続講座「子どもと本をよむ」講師：三宅美子(梅花女子大学教授)・当館職員/場所：当館セミナールーム/五月～六月・二日(毎週火曜日・五回連続)基調講演「本はステキな友だち」講師：中川正文(当館館長)/場所：当館講堂/六月一日

◆「対話と語る 児童文学講演会「パッテリー」のあさのあつこの世界」主催：大阪国際児童文学館を育てる会/共催：当館/講師：あさのあつこ(児童文学者)・鳥越信(聖和大学教授)/場所：当館/五月一六日

◆「ニッサン電話と絵本のグランプリ」日産自動車(株)の協賛を得て、当財団が主催している「ニッサン電話とグランプリ」は、電話と絵本の振興に寄与するとともに、新人作家の登壇門ともなっており、高い評価を得ています。

第二回の応募総数は、電話二五六七編、絵本八〇一編で、厳正な審査の結果、次の作品が入賞し、二月二三日に当館講堂で表彰式が行われました。

◆電話の部(敬称略)
◆「大賞」『アベジ目 ないしだよ』山下奈美(アメリカ合衆国)

◆「優秀賞」『こぼろびカブセル』正木恭子(兵庫県)
『ふみさんも村を出る』稲葉洋子(神奈川県)
『てんてこまい』大久保南咲(三重県)

◆絵本の部(敬称略)

◆「大賞」『白い道』丸岡慎一(北海道)
◆「優秀賞」『ピーマンくんたいさく』いっさいいっさい(沖縄県)「んだいすき」ながやまただし(沖縄県)
◆「ロバ王のイス」富田真矢(福岡県)
◆「よるをてらす」宮越晴子(埼玉県)

◆「子ども室」こども室では、おはなし会(二七回、テーマは「オオカミ」「山」「おひさま」「ドイツ」など、ボランティアとの協働)、物語体験ワークショップ(五回)、物語体験クラブ(七回)、「虫をさがそう」(講師：栗谷邦雄)「アニメーションを作ろう」(講師：小谷佳津志)「ことばあそび大会」「街頭紙芝居」(出演：三區会)「冬の詩をしよう」「おたのしみ会」「カルタとり大会」「大型ビデオ上映会」を行いました。加えて左の行事も行いました。

◆夢の池劇場(五月三、四、五日)
◆五月三日「パオパオの木の下で」西アフリカおはなし村から「出演：江口久(国立民族学博物館教授)、河辺知美・シンコシ(西アフリカの太鼓演奏家)」

◆五月四日「小さな山神スズナ姫」の世界をたのしむワークショップ ゲスト：富安陽子(原作者)②人形劇「小さな山神スズナ姫」上演：人形劇団クラルテ(子どもゆめ基金助成事業)

◆五月五日 ①「アジアのおはなし」(含：当館ボランティアによる人形劇)②書庫ツアー ③「子どもの本の世界」をインターネットで体験

◆作家を招いた行事
◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)

◆三月二十日「絵本作家荒井良二さんと絵本をつくらう」(子どもゆめ基金助成事業)